

必ず投票しましょう！
 4/7日 京都府議会議員選挙
 4/21日 京田辺市長・市議会議員選挙
 選挙管理委員会 (総務室内、☎64-1337)

平成31年
 (2019年)
4.1
 No.851

京田辺 広報ほっとなべ

http://www.kyotanabe.jp/

31年 30年 29年 28年 27年 23年 22年 2019年 17年 1615年 1413年 10年 9年 7年 6年 元年

年表&写真で振り返る京田辺の歩み

平成から新時代へ

田辺町から京田辺市へ、そして市制20周年を経てさらに成熟したまちの「平成」の記録を、年表と写真で振り返ります。

元年 JR松井山手駅開業・全線電化・長尾山手駅間複線化
6年 ベルリンの壁崩壊
9年 国道307号バイパス(府道八幡木津線)山城大橋西詰間) 開通
10年 阪神淡路大震災発生
13年 市制施行により「京田辺市」誕生①
14年 新新田辺線・新田辺駅前線開通②
16年 新山城大橋開通③
17年 アメリカ同時多発テロ発生
19年 JR大住・京田辺・三山木駅の駅舎開業
2019年 中部住民センター「せせらぎ」オープン
22年 新玉水橋開通
23年 田辺公園スケートパーク・野外ステージなどオープン
27年 近鉄三山木駅の高架駅舎完成
28年 新紙幣発行(千円・野口英世・五千円・樋口一葉)
29年 同志社大学などと連携協力に関する協定を締結
30年 人口6万人突破
31年 大住ふれあいセンター(大住児童館・宝生苑)オープン④
 防賀川西側公園(テニスコート・フットサルコート)オープン
 三山木駅前広場オープン
 「同志社山手」まちびらき⑤
 山手幹線(新・尼ヶ池間)開通
 河原保育所新園舎開所⑥
 第二京阪道路京田辺PA開所
東日本大震災発生
 非核平和都市宣言
 三山木保育所新築移転⑦
 防賀川東側公園オープン⑧
 複合型福祉施設「いきいきサポートセンター」オープン⑨
 国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」
 京都ステージ初開催⑩
29年 北陸新幹線の駅設置決定
 南田辺三山木駅前線開通
28年 新名神高速道路(八幡京田辺・城陽間)開通⑪
 水辺の散策路(普賢寺川2ルート、手原川ルート、
 天津神川・馬坂川・木津川ルート)整備完了⑫
 山手幹線(三山木・精華町下泊間)開通⑬
30年 三山木区画整理事業の換地処分により「三山木中央」誕生⑭
 府立田辺高等学校と包括連携協定を締結
 水辺の散策路(虚空蔵谷川2ルート)整備完了



感謝



京田辺市長 石井明三

平成19年4月に市民の皆様からの信託を得て京田辺市政の舵取り役として市長に就任して以来、3期12年にわたり、市政の推進に全力を注いでまいりましたが、この4月末をもって市長としての職を退任することといたしました。振り返りますと、昭和46年に田辺町役場に採用されて以来、職員として36年、市長として12年と、約半世紀にわたって、近鉄新田辺駅前の区画整理をはじめとする京田辺のまちづくり、真心込めて携わることができました。これは、私の人生の宝物であり、誇りでもあります。

この間、本市は目覚ましい発展を遂げました。市の北部、中部、南部の各拠点駅を中心とした都市基盤整備は、三山木区画整理事業の完了をもって一区切りがつけました。また交通利便性と豊かな自然というバランスを最大限生かしながら、「安全・安心な暮らしの創造」と「子育て支援の充実」の二つを大きな柱に据えたまちづくりを進めることで、本市は今なお人口が増加するまちとして発展を続けています。新名神高速道路のジャンクションに「京田辺」の名をつけていただくことや、交付税の要望、施策・事業の採択に向けて関係機関に何度も通ったことは、良い思い出となっています。

高速道路のハブとして位置する京田辺は、今後ますます発展していくものと考えております。そして、こうした伸びゆくまちだからこそ、国も北陸新幹線の駅設置を本市に定めたと自信を持っていきます。

拠点駅の都市基盤整備、そして市制20周年を経て、まちづくりのファーストステージが完了し、次のステージへ移る準備ができた今、新たなリーダーにバトンを引き継ぐことがふるさと京田辺のさらなる発展につながるベストのタイミングであると確信しています。例えば、このタイミングを外さないこと、句を逃さないことは、まちづくりを進める上で私が最も大切にしてきたことの一つです。

「四季を感じて暮らす豊かさを再生」という政策理念や「水辺の散策路」事業など、春夏秋冬という季節を感じる施策を進めてきたのもこうした思いが心の中にあつたからです。

そして、この句を逃さないことで重視してきたのが、課題の発生している現地に赴き市民の皆様の声や「現地主義」であります。そういった意味で、私が進めてきたまちづくり、そして今日の京田辺の発展は、市民の皆様の声に基づくものであり、退任にあたり心に浮かぶ言葉は皆様への「感謝」しかありません。今後は一市民として、この生まれ育った大好きな京田辺の発展を見守っていきたいと思っています。

最後に市民の皆様一人ひとりのご健勝とご多幸、そして愛する京田辺のさらなる発展を願い、退任にあたりご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。